東南アジア各国の関心事項（食料システムサミットでの発言）

国名	概要
インドネシア	<ul style="list-style-type: none"> ・食料システムの変革には農業部門の強化が非常に重要。協力・変革・強靱・持続可能性という4つの主要な方針に基づき食料システムの変革を推進。 ・小規模農家は、伝統的な地域の食料システムの守り手として重要な役割を担っており、より多くの支援と資金配分が必要。 ・より包摂的で強固な利害関係者とのパートナーシップが必要。 ・2022年のG20の議長国として、さらに強固な国際協力関係を築き、食料システムの変革を推進。
カンボジア	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養失調の世代間サイクルを打ち破るため、2030年までにすべての国民が健康的な食事を手頃な価格で入手できるよう全力を傾ける。 ・若者、女性、社会的弱者に権限を付与する。適切な雇用の創出し、教育の提供、ジェンダー平等などを推進。 ・強靱な生計・食料システムのため、弱者や貧困に対処し、食料システムの関係者、ネットワーク、インフラの強靱化を進める。 ・より包摂的な食料システムのためのガバナンスに取り組む。
シンガポール	<ul style="list-style-type: none"> ・食料等の貿易は食料安全保障上の不可欠な要素。貿易の継続性を確保し、さらに接続性を拡大することが重要。 ・Codex、FAO、ISOなどは、食品の安全性を確保しつつ既存の基準の再検討や、貿易を促進する新しい基準を策定することが可能。 ・2030年までに栄養必要量の30%を現地生産する「30 by 30」目標を掲げる。限られた資源で最大限に成長するにはテクノロジーの活用が必要。垂直農業などの革新的な解決策により、狭い土地で生産性を上げ、気候変動の影響を最小限に留めることが可能。 ・代替タンパク質等のこれまでにない食品に注目。ゲームチェンジャーになる可能性。 ・都市における農業食料生産の先駆者となり、世界中に利益をもたらすこと目指す。
タイ	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsを達成するためには、食料安全保障を強化し、安全で健康的な食料への公平なアクセスを確保する必要。 ・農業・食料政策では、食品安全(safety)、安全保障(security)、天然資源とアグロエコロジーの持続可能性(sustainability)の3つのSを重視。またバイオ・サーキュラー・グリーン経済モデルを推進。 ・土壌および水資源の管理を重視（12月5日を世界土壌デーとして指定するのに貢献）
フィリピン	<ul style="list-style-type: none"> ・近代化、工業化、バリューチェーンの統合等に基づき食料システムの変革を推進。 ・地方自治体は、食料安全保障の‘専門家’として行動することが期待され、国は、地方自治体がその役割と責任を果たすために支援する必要がある。 ・「飢餓ゼロ」「学校給食」「健康な食生活」等のコアリションに参加。

	<ul style="list-style-type: none"> ・より健康的で競争力がありジェンダー平等の食料システムへの転換、持続可能な資源の活用に取り組む。
ブルネイ	<ul style="list-style-type: none"> ・生産性向上、国内投資と海外直接投資の促進、国内外の需要に応じる技術向上を通じ、食料システムの強化に取り組む。 ・経済計画において、食料分野を含む5つの優先分野を特定。また、政策推進のため食品産業ロードマップを策定。安全で高品質の食料生産を増大させ、バリューチェーンを強化することが目的。 ・生産性向上、研究開発を含む高付加価値化の推進、産業基盤の整備、国際市場へのアクセス改善による競争力強化と輸出の増大、地域のバリューチェーンへの資金援助による食品加工業の振興、資源回復・再生を通じた持続可能な環境の確保等を推進。
ベトナム	<ul style="list-style-type: none"> ・社会・経済・文化、景観、環境など「多様な価値を有する」農業開発モデルを追求。 ・農業インフラへ必要な投資が重要。民間部門は責任ある投資を行うべきであり、官民パートナーシップをより拡大する必要。「私たちの庭 Our Garden」という食料安全保障を確保するための革新的なモデルを数多く実施。 ・「国家栄養バランス計画」を策定、頻繁に更新。栄養バランスの取れた食生活、責任ある消費動向等を実現するために、教育の充実と情報発信の強化が不可欠。 ・デジタル化は、農業者と消費者を巻き込み推進する必要。食品の安全性や品質の標準化などに焦点をあてたバリューチェーン構築が必要。 ・地域の「食料イノベーションハブ」となることを目指す。 ・研究や、自然災害や疾病の早期警告システムの構築における国際協力を拡大が重要。
マレーシア	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい農業・食品政策において、競争力と持続可能性を確保し、地球規模の経済的打撃に対する強靱性の構築を目指す。 ・農業食品業界の約75%を占める小規模農家と小規模食品生産者に重点を置く。 ・食品システムを強化するため、適切な食品安全規制と、食品業界と関係当局をリアルタイムで接続するデジタル食品安全データ管理の確立を通じて、安全で持続可能な食料を提供。 ・イノベーションと高度な技術、資源をもたらす海外投資、民間投資を歓迎。 ・アセアン統合食料安全保障フレームワーク、アセアン食料安全保障行動戦略計画、アセアン+3緊急コメ備蓄等を通じた食料安全保障を推進。
ラオス	<ul style="list-style-type: none"> ・食料システムの様々な側面は相互に関連。優先順位の中の持続可能なバランスを見つけることが不可欠。 ・食料システムは、地域や世界のバリューチェーンとの繋がりで理解されるべき。国、地域、世界レベルで持続可能な食料システムを達成するには協力が重要かつ必要。